

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 25 年 11 月 11 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470501168		
法人名	医療法人社団 和恒会		
事業所名	グループホーム ふたばの家		
所在地	広島県呉市広白石4丁目7番30号 (電話)		
自己評価作成日	平成25年10月22日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=3470501168-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成25年11月1日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

利用者様にゆっくりと過ごして頂けるよう各職員気を配っており、お手伝いも利用者様ひとりひとりの表情を見ながら声を掛けさせていただいている。また入浴はひとりひとりゆっくりと入っていただけており、利用者様からも自然光だけで明るい浴室にゆっくり入ることができて満足しているという声をよくうかがう。医療面では今年度より定期的な内科診療で定期健診を3ヶ月に1回行っている。利用者様の变化に訪問看護と主治医と連携をはかりながら柔軟に対応させていただいている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

1 当該事業所は、呉市南東部の国道185号線にほぼ面した広白石地域にありアクセスとしてJR広駅から近く、呉市営バスなど公共交通機関を活用できる便利な位置にある。近隣には商店やスーパーなどもあり買い物や外出などにも便が良い。また母体の病院はじめ近隣に同一医療法人関連施設が多く、地域との交流や利用者同士の交流、諸研修・会議など相互に連携して有効で効率的な支援業務が可能のため利用者や家族に安心感や好感を与えている。
2 施設は築10余年であるが今なお新築に相当する機能と外観を保持しており、家具等調度品を含め、利用者に使慣れた自宅という馴染んだ自然な雰囲気と満足感を与えている。
3 職員は管理者を中心に所謂、施設らしくなく我が家のような、普通の家庭生活らしい雰囲気、のんびりと温かく安心して利用者暮らしに暮らしていただくことを理念として支援に努めている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念を皆が見ることができる位置に掲げており共有して実践にあたっている。	法人全体の理念の他に、ホーム独自の日常的な業務を行うためのものとして「我が家にいるような心地よさと安心を提供するケアに心掛ける」など三つを掲げ職員で共有し、実践に当たっている。日々の業務の中での気づきなどを連絡ノートに記入し、周知を図るなど具体的な対応策を検討している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	運営推進会議を通し定期的に事業所の取り組み内容の報告、地域行事の紹介等をしていただいている。	事業所独自としてもご近所とのお付き合いや、催し物への参加など機会を得て繋がり維持に努めている。法人母体の病院や関連事業施設が隣接しており地域と連携のパイプは法人が主体となっている。個々の事業所としては間接的なつながりとなることが多い。しかしながら法人全体の繋がりは地域の一員として交流を維持している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議で事業所内や問い合わせの内容などプライバシーに差し支えない範囲で事例の紹介などさせていただいている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	内容がサービスの実施や取り組み状況の報告は確実に毎回報告できているが、報告で留まっていることが多く意見を求めたりということとは少ない。	同一法人施設が多数隣接しているためか、会議は複数施設合同で各施設間を持ち回りで行われており、参加者の大半は施設側職員で占められている。議題は各施設利用状況・行事活動状況、その他連絡事項が主体となっており、利用者・家族や地域の住民関係者などとの相互の意見交換等は少ない様に伺える。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	介護保険のことやサービス提供をする上で問題がないか不安な時には適宜連絡をさせて頂いている。また年に1回程度運営推進会議への参加もお願いしている。	法人組織のためか施設として個々に市担当者と直接の繋がりは薄いですが、月に一回程度は介護保険関係やサービス提供に関する相談などで積極的に連絡を取っている。また少ないながらも運営推進会議に出席をお願いしたりして連携のパイプを繋ぎつつ協力関係の維持に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束をしないケアの実践を踏まえた上で、管理者の変更に伴い今までは玄関の施錠を行っていなかったが目の前が道路に面しているという立地条件と利用者の飛び出し行為の事例をうけ今年の3月より玄関の施錠を行っている。</p>	<p>身体拘束をしないケアについての職員教育は新人教育、年1回の職員研修教育などで行っており知識的には正しく理解されているが実状は施設玄関が道路に面しているために、安全上やむを得ず施錠している。「安全上の配慮」と「拘束しないこと」の矛盾は管理者理解の下、家族等第三者の客観的な判断を担保として決定している。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>毎年年間研修計画に高齢者虐待防止法等、マニュアルを確認する機会を設け職員が共通の虐待に対する認識を持ち虐待防止、発見に努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>年間の研修計画に権利擁護に関する制度の理解においては取り組んでおり、職員に対する周知はできている。活用においては不十分である。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時に契約の解除の可能性のある事案リスク等については説明し入居いただいている。また改定事項がある場合は必ずご家族に連絡確認を行った後改定をおこなっている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>管理者が苦情窓口になっており、家族や利用者の意見、要望を確認し運営に反映させていただいている。</p>	<p>運営に関する意見や要望については、利用者は直接本人から日常的に伺い、家族からは面会時に意図的に意見や要望を聞く機会を作為して伺うようにしている。その他電話や意見箱を設置しているが意見は面会時に比べ少ない。意見や要望の軽度なものは管理者の判断でその都度対応して運営に反映させている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	連絡ノートを意見交換の場にと考え、現在職員からの業務や運営に関する意見などをくみ上げる仕組み作りに取り組んでいる。	基本的にアットホームな雰囲気の中で管理者や職員間の意見が出しやすく、意見や要望があれば日常的に連絡ノートに記載し月一回の職員ミーティングで意見を周知して検討し、管理者の判断で運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者に対し、相談、要望等ができる窓口が設けられており職場環境・条件の整備がお行えるよう配慮されている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内の研修は行えていると言えるが法人買いの研修を受ける機会は十分とは言えない。管理者の方から外部の研修の案内などはファイリングし職員が目を通す事ができるよう配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	現在同業者との交流ネットワークづくりは行えていない。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	職員に入居前に必ずサービス利用者の情報を確認してもらい、本人が安心して入居生活をおくれるよう配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族と入居に向けてお話をさせていただき段階で利用案内、リスク説明を行う。その際必ず分からない点、不安に感じている点をご家族に確認するようにさせていただいている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	特に直接施設に見学、入居相談に来られた依頼者様には法人内だけでなく法人外のサービスの利用も検討されてはどうかお話しさせていただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ケアプランをもとに暮らしを共にすることによって視点を置き、安心感を抱いていただけるケアをスタッフ一同心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	遠方のご家族の方もいらっしゃるので、月に一度のたよりでは必ず近況報告と写真を添えさせていただいている。また面会に来て頂いた時にはご本人とゆっくりお話ができるよう配慮させていただいている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族、ご友人など自由に来ていただいているが、特にこちらからご家族にご提案等したことはないので今後一声かけて行く事を検討したい。昨今では家族間や近隣住民とのトラブルから入所になるケースも多く馴染みの関係を継続していくことに難しさを感じている。	馴染みの人や場所については家族から得た情報を利用者本人に確認して把握している。家族は勿論、友人・知人等の訪問や面会時にはお茶の接待や再来のお願いなど関係の維持・継続に意を用いた支援に努めている。なじみの場所については家族と連携をとりながら利用者の要望に応じるよう配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士の関係には配慮しなるべくトラブルにならないような環境づくりをしている。また不穏な利用者様に対しては気軽に声を掛けさせていただいたり、ケースに合わせスタッフ一同対応している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	入院などされた利用者様に対して様子を確認させていただきなどさせている。様々なご家族がいる中でどの程度支援していくかに関しては自己研鑽が必要かと感じている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	出来る限りの対応はさせていただいているつもりだが、十分ではないと感じている。	利用者個々の思いや意向の把握は、入所時に本人・家族から聴取し、以後日常生活の会話等から把握・更新したものを介護記録に記入しモニタリングして確認している。利用者個々の得意なこと・できることを把握してそれを伸ばし、向上させるよう支援して暮らしの中の希望として利用者に喜ばれている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	日々生活する中ででてきた話などご家族が来た際に「ご本人がこうおっしゃっていたのですが」と確認させて頂くなどして生活歴や生活環境の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	申し送り時に個別にスタッフに利用者様一人一人の状態を確認し現状把握に努め、ミーティング時の議題として提案させていただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>ご家族が来られた際にはご本人の様子をうかがったり、家族の要望などを確認させていただいている。また入居前にはそれまで本人が利用していたサービスでの状況や趣味嗜好など確認させていただいている。</p>	<p>利用者個々の日常的な介護支援などから現状を把握し、また家族来訪時に家族の要望・本人の現状確認などの情報を得ている。計画作成時に関係者で話し合い、月一回の体調確認・三か月一回の定期検診などの結果を反映しつつ、現状に即した本人がより良く暮らすための介護計画を作成している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>個別記録には日中の様子や夜間の変化また家族への報告ややり取りもスタッフに確認してもらい実践にうつしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>各家族で経済状況、生活歴など違いはあるのでそれぞれの家族に合せて連絡の取り方など配慮させていただいている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>地域資源の活用においてはまだまだ課題があると言える。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>現在の利用者様においては家族との相談の上で同法人の主治医がかかりつけ医となっているが、家族からの希望があればそれに沿った形にすることは可能である。</p>	<p>本人及び家族の希望を第一としてかかりつけ医を選択してもらっている。母体である法人の医院が隣接しており利用者及び家族は入居時からこの法人病院を主治医・かかりつけ医として選定しており適切な医療支援が得られている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	週に一度訪問看護を受けて体調確認や介護職員の気づきなどを看護師に相談し、利用者様の体調の変化の早期発見に努めている。		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	母体の同法人へ入院するケースが多いため担当の医師との話し合いも可能である。他の病院へ転院した際の関係者との関係づくりにおいては特に行っていない。		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	重度化した場合当施設においては看取りができないこと等入居前にご家族とお話しさせていただき、納得された上で入居していただいている。グループホームでの生活が困難になったケースも考えて、同時にご家族に他法人の事業所への申し込みも行っておくことを勧めさせていただいている。	入居時から利用者が重度化した場合や終末期について当該事業所では対応できないことなどを本人・家族関係者は話し合っており、事業所の方針を共有・納得して入居している。したがって重度化した場合など他施設に転居する支援等については十分にお手伝いし、家族などの理解を得ている。	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	新人研修、施設内研修など年に1回はかならず急変時の対応に備え確認している。		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	訓練や今までの事例を通じ職員と日々確認を行っている。	年間2回消防署指導の下に消火及び避難訓練を行っている。事業所として具体的に地域との確たる協力体制は築かれていないが、隣接する法人間の協力体制は確立されたものがあり、万一の場合の対応については支援が得られる体制になっている。今後とも地域との協力体制の確立について努力を継続中である。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	BPSDなど認知症の利用者様に対しどのような言葉かけ声掛けをおこなえばよいか研修を行わせていただき、日々業務に努めている。	利用者個々のできること・得意なことを見つけ、自信と誇りを持たせ個々の人格を認めて尊重する支援に努めている。特に個室での生活や入浴時のプライバシーなどに配慮し入室時などのノックや声掛けを守っている。年間1回は職員に対し人格の尊重やプライバシーの確保について教育や研修を行い徹底を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	自分で思いや希望を現すことが困難な利用者様に対しては特にそういった自己決定をうながす声掛けをさせていただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	大まかな時間の流れはあるもののそれ以外の時間に関しては一人ひとりの思いを大切に支援させていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	起床時に介助や言葉かけが必要な方には特に配慮させていただいている。職員も自然に利用者様の身だしなみをほめている場面をよく目にし、利用者様も気にされているように見受けられる。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者や職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	なるべく色々な利用者様に食事作りには関わっていただけるよう配慮し、難しい利用者様にはテーブルだけでも拭いていただけるようにしていただいている。またその際にはその日の利用者様の体調や表情などうかがいながらお手伝いしていただいている。	利用者個々の嗜好については、入居時及び日常の会話等から把握しており、調理や献立に活かしている。当事業所では食材の購入から献立や調理まで自由に行えるため利用者と職員が一緒に買い物や準備に当たっており、食べるだけでなく作る楽しみも味わっているように見える。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>調理師の資格を取得している職員もおり職員同士相談しながら一人一人に合わせて食事作りをおこなっている。また水分補給は声掛けを多くしてしっかり飲んでいただけるよう配慮している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>認知症状が進むにつれて口腔ケアがおろそかになっている利用者様も多く見受けられる。その為声かけの必要な利用者様には声掛けや見守りも行いながら口腔ケアを行っている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>個別に対応ができています。定時の声掛け以外にも利用者様の行動や表情を見ながら声掛けさせていただいたりもしています。</p>	<p>日常的な便意の前兆動作やチェック表などによる個々のパターンの把握により，定時の声掛けの他に随時様子を見た対応に努め，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援に努めている。トイレに行く途中で漏らしてしまう失敗が見られ，時間的な余裕の把握が出来るように努めている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>排便がしにくい利用者様に関しては排便マッサージを行ったりとできるだけ飲食，運動，など行い排便を行っている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>入浴は一日おきにおこなっているが，安全上時間帯はスタッフの人数の多い昼間に行っている。</p>	<p>入浴は基本的には一日置きに，安全を考慮してスタッフの人数が多い時間帯の昼間に行っているが，利用者の希望によりほとんど希望通りで自由に入浴支援している。また，入浴の順番やタイミングや入浴時間の長短等など好みに応じて，ペースに合わせて楽しめるよう支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	<p>自室に戻る時間は決めており自室にもどってからは自由に過ごしている、特に消灯時間を設けないことで本人らしく安心して眠られている。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>薬の変薬がある度に個人ファイルにある処方内容を確認し副作用など確認し、スタッフにも確認してもらっている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	<p>グループホームで可能な限りの対応はさせてもらっている。他の利用者様から苦情が出ることもあったりするので四苦八苦しながら取り入れて行ったりしている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>現在外出は買い物だけに留まっているが、外出に同伴してもらえるご家族には積極的に勧めさせていただいている。</p>	<p>現在は、職員数が十分ではなく、また近隣の道路の交通量が多く危険なためか散歩などの外出支援は行っていないが、毎日の食材購入など買い物には同伴し外出している。季節行事やドライブなどの外出支援は年間2～3回行っており、楽しみを増やすための外食支援等について検討中である。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>お金の所持はご家族に認知症状の説明も行ったうえで紛失のリスクも説明させていただいた上で本人の安心感になるならば所持していただいている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>遠方の方も多いので電話がかかってきた際には必ずご本人におつなぎするよう努めている。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>リビングにとっても開放感がありリビングから山や庭先の植木などから季節感を感じていただけるようになっている。</p>	<p>一階がゆったりとした食堂兼居間及び八畳間の和室を中心に落ち着いた清潔で明るい共用空間の場となっている。二面のガラス戸は重厚なカーテンにより飾られ、異臭や騒音もなく一日の大半を居心地よく過ごす空間として十分な雰囲気である。三階屋上庭園は広々とした庭園として散歩などにも活用できる空間として整備されている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>ソファを対面に置かないことによって色々なところでお話しされている光景をよく目にする。また居室が2階にあるため一人になりたい方はいつでも2階に行くことができる。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>事前に見学に来ていただいた相談者様にご本人に了解をいただいて実際の部屋を見ていただきどのようなものを持ってきていただいてもいいかイメージを持っていただくよう工夫している。それと同時に混乱を招く可能性もあることも事前にお伝えさせていただいている。</p>	<p>居室は二階中央の廊下を挟んだ両側に配置され、各室ベッド・空調・クローゼット・洗面台などの備品が揃っており、その他の調度品や家財道具などは自由に自分の使い慣れた物を持ち込みできる。また希望によってはベッドも個人のものを持ち込めし、部屋も畳敷きが好ければ畳敷きに変えることもできるようになっている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>心がけて日々ケアに当たらせていただいている。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらい ③利用者の3分の1くらい ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームふたばの家

作成日 平成25年12月24日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	49	今年度は利用者の高齢化や職員の不足が原因で外出支援の機会が減少していた。	定期的な外出支援や外食の機会を設ける。	毎月第3〇曜日は外食に出かけるなど予定として組み入れる。	2年
2	3	運営推進会議の内容が参加していない家族などには伝わっていない。	参加していない家族にも運営推進会議の内容を把握してもらう。	月に1度家族に手紙を出しているの中でその中に運営推進会議の簡単な報告を事業所独自に取りまとめ行う。	2年
3	2	地域との関わりが運営推進会議のみになっており希薄になってきているように思われる。	地域行事に積極的に参加していく。	運営推進会議などを活用し地域行事の情報収集をする。参加できそうな行事があれば積極的に参加していく。	2年
4	20	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れがちになっている	家族だけでなく知人などに来訪していただくようになる。	入居している利用者や家族にご本人の馴染みの関係の人などを聞いて面会に対する敷居を下げる努力をする。	2年
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。